

## 歌詞大意

### 第1巻

#### 1 Auch kleine Dinge können uns entzücken

小さなものでも私達をうっとりさせてくれるわ  
小さくても高価なものだつてあるわ  
考えてみて 私達って真珠をつけることが  
なんて好きかしら  
真珠ほうんと高価だけれどでも 小さいでしょ  
考えてみてオリーブの実のなんと小さいこと  
そしてその価値の為にみんなが深き求めるの  
ばらのことを考えて なんて小さいのかしら  
でも とてもやさしく香る  
みんなも知ってるように

#### 2 Mir ward gesagt

遠くへ旅に出るんですってね  
どこへ行ってしまふの いとしい人  
旅立たれる日を とっても知りたいわ  
涙をあなたのお供ににしたいの  
あなの行く道を涙で滞らしたいの  
私のことを思い出してね  
そうすれば希望の光が私を照らしてくれる  
涙と共にあなたと いつも一緒よ  
私を思い出してね いとしい人

#### 3 Ihr seid die alle schönste

あなたはこの世で誰よりも美しい  
五月に咲く一面の花よりも美しい  
オルヴィエトの大聖堂もヴィテルボの大噴水も  
あなたの輝きにはかなわない

気高い魅力と魔力を持つのはおまえしかない  
シエナの大聖堂もあなたの足下にも及ばない  
ああ あなたは優美な魅力に満ちあふれ  
シエナの大聖堂も比べ物にならない

#### 4 Gesegnet sei durch den die Welt entstand

祝福あれ この世を創られた方へ  
祝福あれ この世を創られた方へ  
そのお方はこの世を素晴らしい  
森羅万象の国にされた  
そのお方は深い海を創られ  
そのお方は海の上を渡る船を造られ  
そのお方は永遠の光明が満ちる天国を創られ  
そのお方は美を またおまえの美貌を創られた

#### 5 Selig Ihr Blinden

めくらの人はいいなあ  
僕たちを苦しめ誘惑し悩ます女性を  
目にする必要がないんだから  
つんぼの人たちはいいなあ  
ふられた男の泣き声  
繰り返す言をおぞましい思いもせずに  
聴いて笑っていられるんだから  
おしの人たちはいいなあ  
惚れた女性に焦がれんばかりの胸の内を  
全く打ち明ける必要がないんだから  
死んだ人たちはいいなあ  
お墓に入ってしまった愛の苦しみから  
永遠に解放されているんだから

註：不適切な表現がありますが、原詩の表現を  
優先して訳しております。ご了承ください。

## 6 Wer rief dich denn

誰が呼んだの  
誰があなたを呼んだのよ  
誰が来いって言ったのよ  
ご迷惑でしょうに  
好きな方の処へ行けば  
もっとお気に入りの方の処へ  
行きなさいよ  
あなたの思いが一杯の処へ  
行きなさいってば  
心も魂も釘づけの処へ  
私の処へ来る手間なんか  
喜んでお返ししてあげるわ  
だから行きなさいって  
もっとお好きな方の処へ  
誰が呼んだのよ  
誰があなたを呼んだのよ

## 7 Der Mond hat eine schwere Klag' erhoben

月は重い悲しみを引きずってようやく空へ昇り  
神様にことの次第を打ち明けた  
僕はもうこれ以上空にいたくない  
だってあなたが空を暗くしてしまったから  
  
この前 僕が星の数を数えたとき  
どう数えても数が足らなかった  
一番美しい二つの星をあなたは隠してしまった  
僕の目をくらませた あの二つの瞳を

## 8 Nun lass uns Frieden schliessen

もう仲直りしよう 愛する人よ  
いがみ合うのは少し長過ぎた  
おまえが止めたたくないというなら

僕が負けたことにしよう  
死ぬまでやり合うつもりかい？  
王様や將軍でさえ仲直りするんだ  
恋人同士でできない 訳はない  
領主様と兵隊だって仲直りするんだ  
愛し合う二人ができない 訳はないよ  
そう思わないかい？  
そんなに偉い人だってできるんだ  
愛し合う二人ができない 訳はないよ

## 9 Dass doch gemalt all' deine Reize wären

おまえの魅力が全てありのままに描き出され  
その肖像が異教徒の王様の目に触れたなら  
王様はおまえにたくさんの贈り物を捧げ  
彼は王冠をおまえに委ねるであろう

彼の全領土はその端から端まですべて  
正しい宗教に改宗するだろう

国中の至る所にお布令が出るだろう  
キリスト教に全てがなるように  
そしておまえを愛するように と

すると異教徒たちは全てあつという間に改宗し  
敬虔なキリスト教徒になり君を愛するだろう

## 10 Du denkst mit einem Fädchen mich zu fragen

あなたったら 細い一本の糸で私を捕まえて  
一目でたちまち好きにさせようって思ってるでしょ  
でもね 私にぞつこんな人がもういるの  
私がおまへを笑んだからって 勘違いしないで  
もう 他に好きな人がいるんですもの 本当よ  
ああ 私 恋いしちゃったの  
でも あなたにじゃないわよ

11 Wie langeschon war immer mein Verlangen

ああ なんて長いこと待ってたのかしら  
私にはやっぱり 音楽家の彼がお似合い  
で 神様は 私の願いをかなえて下さったの  
色白で 若々しい音楽家を贈って下さったわ  
ほら 丁度彼が来たわ やさしい表情で  
そして 恭しくお辞儀をして  
ヴァイオリンを弾き始めるわ

12 Nein, junger Herr

だめだめ 若いひと そんな風にしないものよ  
もっと料子 お振る舞いになって  
普段の日は私で充分なんですよ 違って  
でも お休みの日にはもっといい子を探すんですよ  
だめね 若いひと そんなことばかりしてたら  
普段の日の恋人も 愛想つかしちゃうかもね

13 Hoffärtig seid Ihr, schönes Kind

いい気なもんだね 奇麗なお嬢さん  
これ見よがしに崇拜者を引き連れ周り  
話しかけてもお言葉もいだけない  
もったいないと言わんばかりだ  
  
おまえはアレキサンダー大王の娘ではないし  
王様の領地を持参金にしている訳でもない  
黄金がいらないと言うなら 錫を望めばいい  
愛が要らないなら 軽蔑でも代わりに望めばいい

14 Gesell, woll'n wir uns in Kutten hüllen

兄弟よ  
ひとつ世を捨てて僧侶にでもなろうか  
この世に未練のある奴は放っておこうぜ

俺たちはそーっと一軒一軒鉢鉢して廻るんだ

「イエス様の御名において貧しい僧へお恵みを」

「おお神父様 後でまたお越し下さいませ

その頃にはパンもちょうど

焼き上がっていますでしょう」

「ああ神父様 もう少し後にして下さい

ちょうど娘が病気で寝込んでおります」

「娘が病気じゃと！

では枕元へ私を案内しなされ

塗油も授からんで死なれたらことですぞ

娘が病気なら私にみせなされ

懺悔を聴いて差し上げよう

誰にも邪魔されぬように 戸を閉めるのですぞ

可哀想な娘さんの懺悔を聴くんじゃからな！」

15 Mein Liebster ist so klein

私の大事な人は とっても小さいの 腰も曲げずに  
私のお部屋を巻き毛で掃いてくれるの  
ジャスミンを摘みに お庭に出ると  
かたつむりと出くわして びっくりしちゃうの  
そしてお家で 座って一息いれてると  
蠅がぶつかってひっくりかえっちゃうの  
  
それから 彼が私のお部屋の窓辺にやって来ると  
アブが彼のおつむを刺しちゃったの  
ああ 厭だこと 蠅も かたつむりも アブも  
そして マレンメンの恋人がいる私も  
ああ 厭だこと 蠅も かたつむりも アブも  
そして 彼にキスするとき  
こんなに低くかがまなきやいけぬ私も

16 Ihr jungen Leuten

その 戦地へ赴く若者たち  
私の大切な人を 気をつけてあげてね  
戦火の中で 彼が勇ましくいられるように  
面倒を見てあげて  
彼ってまだ 戦にいった事がないのよ  
外で寝かせたりしないでよ  
彼は華奢なの だからすぐに参っちゃうわ  
月の下でなんて寝せないでね  
そんなことしたら 彼死んじゃうわ  
だって彼 慣れてないんだもの

17 Und willst du deinen Liebsten sterben sehen

恋人に焦がれ死ぬような想いをさせたいなら  
髪を巻き毛にすることはだめだよ 愛しい人よ  
髪は肩から長く垂らしておくれ  
すると金糸のように輝いて見えるよ  
  
その髪は輝く金糸のように風になびく  
なんと美しい髪か なんと美しい人か！  
数えられぬほどの金の糸 絹の糸よ  
なんと美しい髪 なんと美しく輝く人よ！

18 Heb' auf dein blondes Haupt

ブロンドの頭を上げてごらん  
そして眠っちゃあだめだよ  
居眠りに誘惑されちゃあだめだよ  
今から僕が大切な言葉を4つ言うからね  
ひとつだって聞き逃しちゃあだめだよ  
  
一つ目 おまえのせいで僕の心が張り裂けた  
二つ目 僕はおまえ一人のもの  
三つ目 僕の幸せはおまえ次第

そして最後の言葉は

僕の心は おまえ一人を愛しているよ

19 Wir haben beide lange Zeit geschwiegen

私たちは 二人 長いこと沈黙していました  
でも 突然また 言葉が二人にもどってきたのです  
天使が 天から舞い降りてきて  
戦いの後に平和を再びもたらしてくれたのです  
神の天使が舞い降りてきたのです  
彼らによって平和がもたらされたのです  
そして愛の天使が夜に訪れて  
私の胸の中に 平和をもたらしてくれたのです

20 Mein Liebster singt am Haus

愛しいひとが 月の光の中 私の家の前で歌ってる  
私は、ベットによこになったままで  
ここで 耳を澄ましているの  
お母さんに背を向けて泣いているの  
血の涙が枯れるほど流れているわ  
あまりの涙にベットは 大きな河のようになって  
涙のせいで 朝が来たのかもわからない  
焦がれる思いに  
ベットは大きな河になってしまったの  
血の涙が 私を 盲目にってしまった

21 Man sagt mir, deine Mutter woll't es nicht

あなたのお母さんが反対なんですってね  
皆がうわさしてた  
じゃ いいわよ あっちへ行行って  
お母さんの言いなりになってれば  
ああ だめ お母さんの言いなりになってちゃ  
やっぱり訪ねてきて こっそりと言いつけに背いて  
だめよ 愛しいひと

お母さんの言うことは聞いちゃだめ

いつけに背いて

いつもよりもっともつと訪ねてきて

絶対だめ お母さんが何と言っても 聞いちゃだめ

いつけに背いて 愛しいひと 毎日来て

## 22 Ein Ständchen Euch zu bringen

セレナードを奏でるために僕はやって来た

もしこの家の主の許しがあればですが

おたくに美しい娘さんはいらっしゃいますか?

厳しく家に閉じ込めておかない方が

いいのではないのでしょうか

もうお休みになっているのだったら

どうか彼女にお伝えください

娘さんの崇拜者が訪ねて来たことを

そして一日が24時間なのにもかかわらず

25時間も会わずにいることを

## 第一巻終了

《 休 憩 15分 》

## 第2巻

### 1 Was für ein Lied soll dir gesungen werden

どんな歌をおまえに歌ってあげればいいのか

おまえにふさわしい歌って

どこを探せばいいのか?

一番いいのは深い土の下から掘り起こそう

誰も歌ったことのないような歌を

一つの歌 どんな男もどんな女も老いた人も

これまで聴いたことのないような歌を

### 2 Ich esse nun mein Brot nicht trocken mehr

私は もう 乾いたパンを食べることはないわ

一本の棘が 足に刺さったままなの

無駄に右や左と見回しても

私を愛してくれる人は みつからない

でも ちょっと齢をとって小男でもいいわ

愛情と敬意を ほんのちょっとくれる人なら

私が言いたいのはね とでもかっこよくて

立派な老人

そう 私と同じくらいの年齢の

つまりはっきり言えば

齢をとった小男 そう 14歳くらいだね

3 Mein Liebster hat zu Tische mich geladen

私の恋人がね 私を お食事に招待したの  
でも 迎えてくれるようなお家はないのよ  
煮たり焼いたりする薪も 釜戸もないの  
お鍋だっってとっくに2つに割れちゃってるし  
小さなワインの樽だっでないし  
グラスなんて てんで使い物にならなし  
テーブルは小さいし  
テーブルクロスだっっておなじこと  
パンは石みたいだし  
でもってナイフもなまくらときたもんよ

4 Ich liess mir sagen und mir ward erzählt

人が僕に話してくれる事によると  
男前のトニーは死ぬほど腹が減っているそうな  
彼女に惚れてからと言うもの  
奥歯で7つのパンを貪り食っている  
  
それを食べると 腹ごなしと  
ソーセージを一本 パンを7つ飲み込んでしまう  
トニー坊やが恋の苦しみを押さえることができず  
次の食料不足と物価高騰がおそってくるだろう

5 Schon streckt' ich aus im Bett die müden Glieder

疲れた身体をベットに横たえたとしたら  
おまえの姿を思い出してしまうのさ 愛しい人よ  
僕はすぐに飛び起き 靴を履いて  
リュートをつま弾きながら街を歩き回る  
僕は歌い奏で それは街中に響き  
みんなが耳をそば立てたとき  
僕はすでに通り過ぎている  
娘たちが僕の歌に心動かした時には  
風が歌もリュートの響きもさらってしまっている

6 Du sagst mir, dass ich keine Fürstin sei

私が 貴族じゃないって 言うのね  
あんただって スペイン王家の出じゃないじゃない  
そうじゃないでしょ  
あんた鶏の鳴き声で目を覚まして  
畑へ出るんではよ  
お召し馬車でお出ましじゃなくて  
あんたは 私の身分が低いってからかうけど  
でも貧しいからって品性を失うことなんてないわよ  
あんた 私に 王冠も紋章もないって嘲笑うけど  
そういうあんただって  
自分の足でお出ましじゃない

7 Wohl kenn' ich Euren Stand

勿論わかってますわ 貴方の高い御身分  
そんな低いところまで下りてくださらなくても  
こんな 貧しくて身分の低いものを愛する為に  
この世のどんなに美しい方でも  
貴方に惹かれてしまうでしょう  
貴方は どんな美男子にも  
簡単に勝ってしまうでしょう  
だから わかってますの 私とは お遊びだっって  
私を弄んでるって 皆が忠告してくれますの  
でも ああ 貴方は なんて素敵なんでしょう  
誰が 貴方を 恨めましようか

8 Lass sie nur geh'n, die so die Stolze spielt

あんなお高くとまった女は好きにさせとくがいい  
お花畑の中の一番の花と言うつもりなんだ  
彼女のむき出しの眼つきをみてみるよ  
毎日好きな男が変わるんだ  
だからあいつはトスカーナの河みたいにもんさ  
支流がいっぱい流れているように

かと思うとアルノ河みたいにお供がいなかったり  
あいつにも大勢の取り巻きがいたりいなかったり

#### 9 Wiesoll ich Fröhlich sein

どうして僕が気分よく そして笑っていられよう  
おまえがいつも僕にプリプリしているのに  
おまえは百年に一回訪ねて来たらしいほうさ  
それもまるで誰かに言われて来たように  
どうして来るんだい  
おまえの家族はそれをいっ顔しないのに  
ほっておいておくれ おまえも好きにすおひまいい  
おまえは家で団樂を楽しめばいい  
神様がお決めになったこと そうするしかない  
家でおまえはみんなと楽しくやればいい  
神様がお決めになったこと そうなるしかない

#### 10 Was soll der Zorn, mein Schatz

如何して怒ってるの あなた そんなに熱くなって  
私 何も悪い事した覚えはないけど  
ああ もうだったら よく尖ったナイフを  
私に突き立てて 胸に穴でもあけたら  
ナイフで足りないのなら 剣にすれば  
それで 私の血しぶきが天まで届くように  
そう 剣でも足りなけりゃ 鋼鉄の短刀にすれば  
そして 私の血で 私の苦しみを洗い流してちょうだい

#### 11 Sterb' ich, so Hüllt in Blumen meine Glieder

僕が死んだら 軀を花で覆っておくれ  
そしてお墓になんか埋めないでおくれ  
城壁の下に寝かせておくれ  
僕があそこを好きだったことを  
みんなが知っている

そこに雨の日も風の日も  
寝かせたままにしてほしい  
おまえのためだったら喜んで死ぬよ 愛しい人よ  
あそこに寝かせてほしい  
陽の照る日も雨の日も  
おまえのためだったら喜んで死ぬよ

#### 12 Und steht Ihr früh am Morgen auf

あなたが朝早くベットから起き上がると  
まず空の雲をすべての雲を追い払い  
山の端に太陽を上らせる  
すると天使たちが争って姿を現し  
はきものや衣装をそろえて出す  
  
そしてあなたが朝のお祈りに出かける時  
みんなあなたの後を追っていく  
そしてあなたが教会の祭壇に近づくと  
あなたの瞳がランプに灯を点す

あなたは聖水を受け 十字を切り  
ぬれた指で白い額に触れる  
そして身をかがめ 膝まづく  
ああ何と優雅でうっとりさせせる姿か

なんと優美で喜びに満ちた贈り物を  
あなたに神はしたことか  
あなたは美の栄冠を神から授けられたのだ  
優雅で喜びに満ちあなたは人生を歩み続ける  
美の栄冠をあなたは授けられたのだから

13 *Benedeit die sel'ge Mutter*

亡くなられたお母様に幸あらんことを  
おまえをそんなにも愛らしく  
美しく生んでくれた方に  
僕の想いは おまえに捧げられている

そんなにも愛らしい仕草を  
この世で一番やさしいおまえよ  
おまえは僕の宝 僕の至福  
愛しい人よ おまえに幸あれ!

僕が一人遠くからおまえに憧れ  
おまえの美しさに見とれていると  
いつしか身体は震え溜息をついている  
僕はそれを押さえることができない

そして僕の胸は激しく  
情熱の炎で燃え上がり  
僕の気持ちを掻き乱すのだ  
ああ 今にも僕は狂いそうだ!

14 *Wenn du, mein Liebster, steigst zum Himmel auf*

もし あなたが 天国へめされるのなら  
私は 私の心臓を持ってあなたの処へ行きます  
あなたは 愛おしく  
私を抱きしめて下さることでしよう  
それから二人で 神様の御前にひれ伏しましょう  
そして神様は私達の愛の苦しみをご覧下さり  
二つの愛し合う心臓を一つにして下さるでしょう  
二つを一つに  
天国で天の光につつまれながら

15 *Wieviele Zeit verlor ich, dich zu lieben*

おまえを愛するのにどれだけの時間を失ったか  
そんな時間があつたら  
神様にお祈りでもしておけば良かった  
そうすれば天国に僕の席を  
聖人たちの隣に予約することだってできたのに

しかしおまえのような若く美しい女に  
惚れてしまったばかり  
天国の光り輝く生活を棒こぶってしまった  
おまえのような美しいスマイルを愛したばかりに  
僕は天国の門をもうくぐることはない

16 *Wenn du mich mit den Augen streift und lacht*

おまえが僕を撫でるように見つめ 微笑むとき  
あごが胸につくほど顔を伏せる  
その時はまず僕にそっと知らせおくれ  
そうすれば 僕は心を抑えることができる

僕の心臓がおまえへの愛で飛び出しそうになる時  
抑えるよう おとなしく静かにと  
僕の心臓がおまえへの愛で張り裂けそうになる時  
僕の心臓を胸にしまっておきなさいと

17 *Gesegnet sei das Grün*

祝福しよう 緑と緑を身にまとう人を  
私は 緑の服を作らせよう  
緑の衣装は 春の牧場もまとっているよ  
緑をまとうのは 狩人の習わし  
私の恋人も緑をまとっている  
緑は なんにでも素直に似合う  
どんな果実も緑からうまれる

18 O wär' dein Haus durchsichtig wie ein Glas

ああ あなたの家が  
ガラスのように透き通っていたら  
愛しいひと あなたのお家の前を  
こっそりと通り過ぎるとき  
どんなに 心から あなたを見つめられるでしょう  
私のころは  
どんなに沢山のまなざしを贈ることでしょう  
三月の小川の水滴よりも多く  
私は あなたに  
沢山のまなざしを 贈ることでしょう  
降り注ぐ雨のしずくよりも多く

19 Heut' Nacht erhob ich mich

私は この真夜中に目覚めた  
私の心臓がそっと 抜け出していった  
私の訊ねた 心臓よ そんなに急いで何処へ行くの  
すると 心臓は答えた  
ただあの人に会いたくて 抜け出したのさ  
わかるでしょう 私の愛の強さを  
私の心臓は あなたに会いに 抜け出すの

20 Nicht länger kann ich singen

もうこれ以上歌えない  
風が強く吹いて 息をすることさえできない  
そして時間がすだに思えてしまう  
もし自信があれば 寝に帰ったりしないし  
もう少し手応えがあれば家に帰ったりはしないし  
こんな素敵な時間を一人で過ごしたりもしない

21 Schweig einmal still, du garst'ger Schwätzer dort!

ちよつと 少し黙ってなさいよ  
そこの 厭な おしゃべりなあんた  
あんたのその いらいらする歌 吐き気がするわ  
朝から晩までそうやって やってても  
いい歌なんて出来っこないわよ  
ちよつと 少し黙ってなさいよ  
そしてとっと寝ちゃったら  
ロバが歌うセレナーデの方がよっぽどいいわ

22 O wüßtest du, wie viel ich deinetwegen

ああおまえは知っているのか  
おまえのために僕がどれほど夜苦しんだことか  
嘘つきで不実な女よ  
おまえが閉じきった家の中で眠っている時に  
僕は一人夜空の下立っている  
  
雨が降れば香水がふったと思い  
稲妻が光れば愛の便りが空に届いたと思い  
突風と一緒にさいころを転がして遊び  
そうしておまえの軒の下で起きていた

おまえの家の軒下が僕の寝床代わり  
広がる夜空が掛け布団  
そして戸口の敷居も枕代わりだった  
ああどうしてこんな目に  
遭わなければならぬんだ  
哀れな男め!

23 Verschling' der Abgrund meines Liebsten Hütte

深い底にあの人の家が呑み込まれたらいいのよ  
その瞬間 あの場所が  
泡立つ湖に沈めばいいんだわ  
天から弾丸が  
あの人が落ちて降ってくればいいのに  
そして、深い底には 蛇がすんでるの  
家の中に毒蛇が住んでるんだわ  
私に不実だったあの人を毒で噛みついて  
毒を一杯含んだ蛇がね  
そして あの人を 殺して  
私を裏切ったあの人を

24 Ich hab' in Penna einen Liebsten wohnen

私 ペンナに恋人がいるの  
あッ マレンメン平野にも1人  
アンコーナの美しい港にもう1人  
ヴィテルヴォに行けば4人目が  
それから もう1人 カーゼンティーノに  
その次は、私と同じ町に暮らしてるでしょ  
それから それから マジョーネにもう一人  
ラ・フラッタには4人  
でもって カスティリオーネには10人よ

第二巻終了

訳 佐々木典子 (イタリック体)

河野克典 (明朝体)